

# 学業と部活動の両立への挑戦

# 桜だより

令和3年  
6月9日(水)

向学  
友愛  
英気

立松中学校  
校長 赤坂 啓



086(955)3211

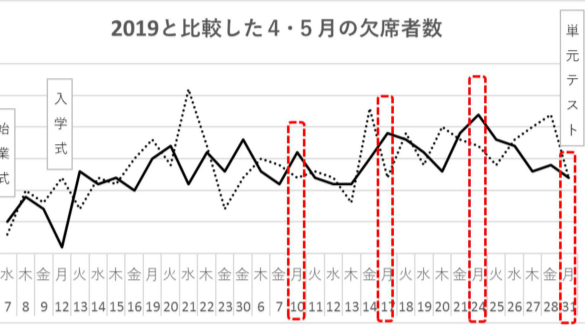
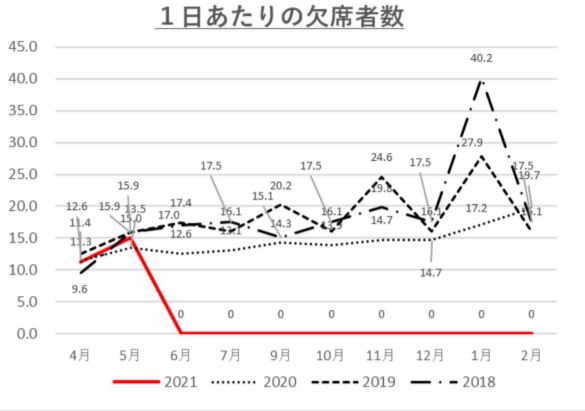
非常事態宣言の発令で、またしても出鼻をくじかれたが、桜中生は存外たくましい。本校が学校全体のコンディションを計る指標に使う欠席者数を見ても、例年並みかそれ以下。学校を休む生徒が問題なのではない。学校の作ったルールに生徒が合わせる仕組みから、変化の激しい社会に振り回されず、自分をアップデートする力を培う仕組みに変えるのが「未来プロジェクト」。6月はテストと部活動が密集する過密スケジュールになるが、社会ではマルチタスクは当たり前。学業と部活動のどちらかではなく、両立をめざして自己調整力を培いたい。

## レポート直後の宣言発令

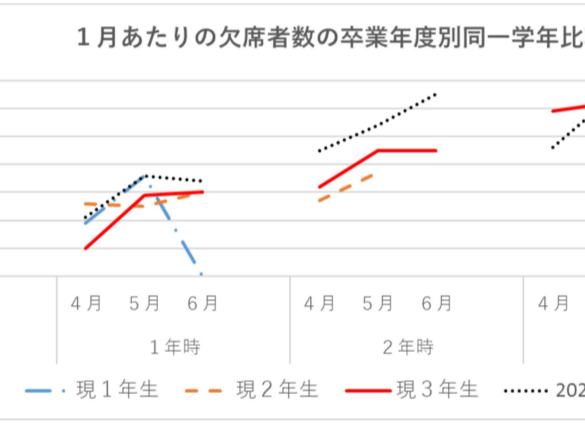
4月末の参観授業・PTA総会での中止、分散登校、ゴールデンウィーク中の部活動の停止。進級して張り切っていた子ども達も、出鼻をくじかれた。やっと挽回できると思った途端、今度は緊急事態宣言が発令された。3年生にとって最後の大会・コンクールを目前に控え、再開したばかりの部活動は再び停止した。

## たくましく自己調整力

しかし、困難な状況にもかかわらず、存外、桜中の生徒はたくましい。一番上のグラフ「1日あたりの欠席者数」をご覧ください。1日あたりの欠席者数は、4月が2018年11.3、2019年9.9、2020年15.9、2021年15.9。5月が2018年11.3、2019年13.5、2020年15.0、2021年15.0。例年並みかそれを下回っている。



	4月			5月			6月		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
2021	1.9	2.7	5.9	3.6	3.7	6.2	0.0	0.0	0.0
2020	2.6	3.2	4.6	2.5	4.5	6.4	3.0	4.5	4.8
2019	1.0	4.5	6.0	2.9	5.4	6.4	3.0	6.5	4.2
2018	2.1	2.5	3.3	3.6	4.4	5.9	3.4	5.1	6.7



6月の期待不安  
気にかかるとは、今月6月の欠席者数。3番目の表と一番下のグラフ「学年別1月あたりの欠席者数」は、4月・5月・6月の1月あたりの欠席者数を学年ごとに整理したもの。表は、たとえば、昨年度2020年に在籍した学年ごとの生徒を追いかけた形。グラフは、これを、たとえば、2020年に卒業した3年生(現高1)が1年生だったとき、2年生だったときというように卒業年度ごとに追いかけた形。まず、表を見ると、ほとんどの年度、月で学年が上がるにつれて欠席者数が増え、3年生が最多となるのが分かる。次に、グラフで見ると、どの集団も1年時は欠席が少なく大差ないこと、どの集団も4月から5月にかけて増加する。6月には概ね落ち着くことが分かる。ただ、2020卒業生(現高1)については、2年時に増加の一途だったのが、3年時は6月に大きく減少に転じた。さて、今年の6月の欠席者数がどうなるか。現2年生のグラフは、現高1のよう

## 未来プロジェクトの効果

桜中は、学校全体のコンディションを計る指標に、欠席者数を使っている。一番上のグラフ「1日あたりの欠席者数」を見て分かる通り、本校の欠席者数は、学期を経るごとにアップデートを繰り返しながら

次に、上から2番目のグラフ「2019と比較した4・5月の欠席者数」を見ると、点線2019より実線2021の方が、上下動が少なく概ね低い位置にある。先ほど1月単位で「例年並みかそれを下回る」と表現したこと、1日単位のデータが裏付けた形だ。(ただし、2019と比較する場合、同じ時期でも行事や曜日が異なることに注意が必要だ)見通しを持ちにくい中で、心身のバランスを自分で調整しようとする成果だろう。

から右肩上がりに増加していた。ほぼ1月おき、欠席は行事とともに増え、定期テストにかけて減っていく。学校を休む「生徒」が問題なのではない。学校という「仕組み」の問題なのだ。変化が激しく将来の見通しを持ちにくい時代を生きていくには、自分の力だけでは変えようがない現実を振り回されるのではなく、自分の考え方や行動を状況に合わせて調整し、変化・更新(アップデート)させる。厳しい現実を嘆くのではなく、明るい未来を信じ、たくましく生きる力が必要だ。

改めて、一番上のグラフ「1日あたりの欠席者数」をご覧ください。最も下にほぼ平坦な2020の線がお分かりだろう。新型コロナウィルスに振り回される中、昨年度、未来プロジェクトで再構築された新たな仕組みによって、欠席者数は大幅に減った。

そうした教育に旧来の仕組みは十分ではない。少なくとも今までの桜中は、途中で息切れを起し、潜在能力を発揮し切れていなかった。「宿題も服装も全員同じ」が当たり前の学校を経験してきたご家族や教職員には、「子どもは強制でもしないと頑張れない」と思う方がいる。一方で年間3500を超える欠席や遅刻と、その理由の多くを占める体調不良や頭痛、腹痛をどう見るか。「未来(が見える学校)プロジェクト」が、自分の頭で考える「自立」と多様な人となつながら「協働」を合言葉に3つの改革を進めるのは、自分を状況に合わせて調整し、アップデートできる「仕組み」を再構築するためだ。

## 6月の期待不安

3番目の表と一番下のグラフ「学年別1月あたりの欠席者数」は、4月・5月・6月の1月あたりの欠席者数を学年ごとに整理したもの。表は、たとえば、昨年度2020年に在籍した学年ごとの生徒を追いかけた形。グラフは、これを、たとえば、2020年に卒業した3年生(現高1)が1年生だったとき、2年生だったときというように卒業年度ごとに追いかけた形。まず、表を見ると、ほとんどの年度、月で学年が上がるにつれて欠席者数が増え、3年生が最多となるのが分かる。次に、グラフで見ると、どの集団も1年時は欠席が少なく大差ないこと、どの集団も4月から5月にかけて増加する。6月には概ね落ち着くことが分かる。ただ、2020卒業生(現高1)については、2年時に増加の一途だったのが、3年時は6月に大きく減少に転じた。さて、今年の6月の欠席者数がどうなるか。現2年生のグラフは、現高1のよう

大会やコンクールのある部の活動日程		○活動が可能な日		△履出により活動が許可される日											
曜	日	活動	備考	日	活動	備考	日	活動	備考						
月	31		単元テスト	7	○		14	○		21	△	単元テスト	28		まとのテスト
火	1	○		8	○		15	○		22	△		29	○	まとのテスト
水	2		やる止め	9			16		やる止め	23		やる止め	30	○	
木	3		やる止め	10			17	○		24		やる止め	1	○	
金	4	○	単元テスト	11	○		18		やる止め	25	△	単元テスト	2	○	
土	5			12			19			26			3		地区大会
日	6		土日いずれか	13		土日いずれか	20		土日いずれか	27			4		地区大会

に右肩上がりになるか、現3年生のようには落ち着くか。現3年生のグラフは、現高1のように減少に転じるか、右肩上がりか。

## 過密な6月を乗り切るために

ただ、昨年は夏の総体やコンクールがなかった。今年は夏季総体が単元テストやまとめテスト(期末テスト)とぶつかるため、今までの桜中生なら、心身のバランスを崩して欠席者数が増加する可能性が高い。リスクがあるのだ。

今回の試みは、学業だけ、部活動だけに集中できるようにするプランではない。学業と部活動を両立させるプランだ。中学・高校の多くは、テスト週間は部活動を停止して、学業に集中できるようにする。しかし、社会に出れば、2つも3つも並行して仕事をこなすのは当たり前。電話を持ちながらパソコンを打つ、豚肉をレンジで解凍しながら野菜を刻むなどは当たり前だし、1人で3つのプロジェクトを進めたり、1歳の息子のおしめを替えながら7歳の娘の本読みの宿題を聞いたりも日常茶飯事。

生徒の好きなことだけ、好きなように没頭させるのではない。自分の体力や学力、将来の目標などを中学生なりに考える。そして、部活動だけ、学業だけの中学校生活でなく、両方をその子なりに両立させる。リスクがある上、中学生だけでは為し得ないことだ。ぜひ、ご家族の支えと導きをお願いしたい。

## 3つのお願い

- 6月26日(土) 分散参観授業 (給食・部活動なし、一斉下校)**  
密を避けるため、お子さんの座席位置によって学級を3等分し、家庭から一人、2~4時間目のうち指定の1時間を参観いただきます。(ご兄弟がいる場合は、その限りではありません)なお、3年生については、並行して修学旅行説明会を開催します。
- 7月3日(土)4日(日) 備前東地区夏季総体 \*5日(月)振替休日**  
感染防止の観点から、ほとんどの会場が無観客になりそうです。また、個人戦は参加者数を制限する場合があります。保護者の皆さまには、お弁当や送迎などでお世話になります。
- 7月20日(火)~29日(木) 個別懇談**  
今年度から、授業時数確保のため、1学期末の個別懇談を終業式後に行うこととしました。この期間は、県夏季総体の開催期間中なので、出場する生徒や顧問教員は、地区総体の結果次第で調整が難しくなる場合が考えられます。保護者の皆さまには、できるだけ来校できる日を用意していただき、日程調整にご協力をお願いします。